

ポストイナ鍾乳洞 (Postojnska Jama)

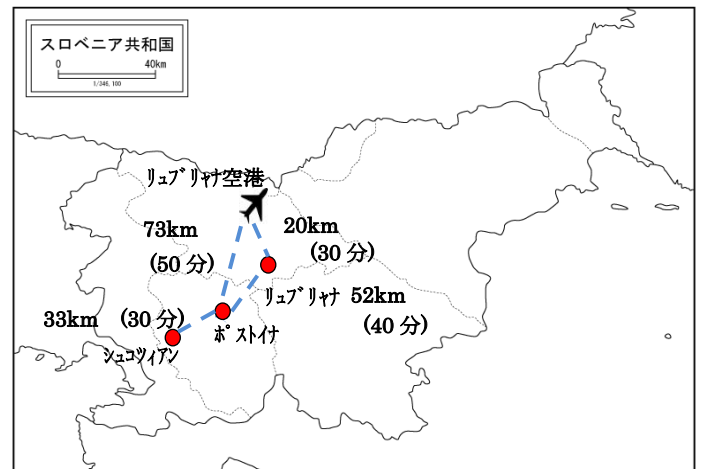
平成28年8月
在スロベニア日本国大使館

～ポストイナ鍾乳洞のポイント～

- ヨーロッパ最大級の規模を誇る鍾乳洞
- 色や形の異なる、多種多様な鍾乳石
- 鍾乳洞に生息する「ホライモリ」
- 断崖絶壁に建つ中世の城「洞窟城」
- 「カルスト」の由来となった「カルス地方」



赤や白に色づいた鍾乳石



1. 基本情報

(1) アクセス

- 首都リュブリャナから約52km: 車で約40分
バス(リュブリャナ駅発)で45分～1時間
1日20便運行
- リュブリャナ(ヨジェ・プチニク)空港から
約73km: 車で約50分

(2) ポストイナ市

- ・人口: 16, 026名(2015年12月現在)
- ・主要産業: 観光業、木材加工業、機械工業、製造業、農業
- ・平均総月収: 1, 437ユーロ
(約18. 5万円、2015年)
(全国平均: 1, 555ユーロ)
- ・失業率: 12. 2%(全国平均は12. 3%)

2. 概要

(1) 形成

ポストイナ鍾乳洞は、200万年の間に徐々に侵食を進めたピウカ川の地下水流によって形成された。現在、鍾乳洞の最大深度は115mある。

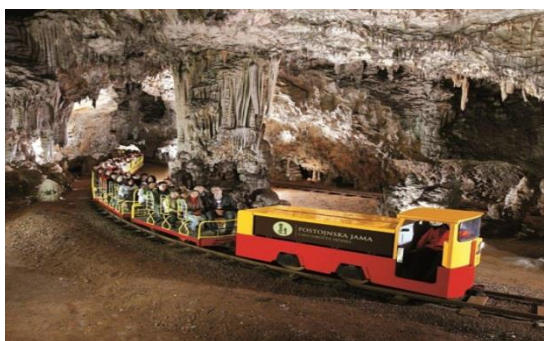
(2) 歴史

●ポストイナ鍾乳洞の存在は13世紀頃から知られていたが、大部分は1818年、当時皇太子であったオーストリアのフェルディナント1世の訪問に備え準備をしていた際に、地元のルカ・チェツチ(Luka Čeč)によって発見された。そして翌1819年8月17日のフェルディナント1世の訪問により、広く知られることになる。以後、世界各地から多くの観光客が訪れるようになった。日本からは有栖川宮威仁親王夫妻(1889年)、小松宮依仁親王夫妻(1894年)、高松宮宣仁親王夫妻(1930年)、紀宮清子内親王殿下(2000

年)、秋篠宮同妃両殿下(2013年)が訪問している。

(3) 見学コース

●鍾乳洞の全長は約24kmあり、現在見学出来るコースは5kmである。鍾乳洞内は年間を通して気温が8~10度程で、見学の際には夏でも上着が必要になる。通常、言語ごとにグループに分かれ、ガイド(日本語のガイドはいないが、オーディオガイドで日本語が選択可能)と共に見学する。コース内は3.7kmにわたってトロッコ電車が走り、観光客は電車からも鍾乳洞を観覧する。この電車の軌道は1872年に単軌道で敷設されたもので、当初は人力で2人乗りの客車を動かしていた。1924年に蒸気機関車の運行が開始され、1957年に電化。1964年に二線軌道化された。現在の全線が開通したのは1968年である。



鍾乳洞内を走る電車

©2016 Ljubljana Tourism

●電車を降り、少し歩くと谷にかかる橋がある。この橋は、「Russian Bridge」(ロシア橋)と呼ばれ、その名の通り、第一次世界大戦中、ロシア人捕虜によって建設されたものである。



ロシア橋

●洞窟内には、茶色から白色に至る鍾乳石や石筍(せきじゆん)が並ぶ。鍾乳石は上から地面に向かって成長するのに対して、石筍は地面から上方に成長する。そして、この2つが繋がると石柱になる。鍾乳石が1mm成長するには、10年から30年かかるといわれている。

●鍾乳石や石筍の中には、その細さからスパゲッティの麺のように見えるもの、赤みがかってベーコンのようなもの、その他形がラクダ、ドラゴン、アイスクリームなど

に見えるものもある。見学コースの終盤にある最も白い鍾乳石は「Brilliant」(ブリリアント)と呼ばれ、ポストイナ鍾乳洞のシンボルになっている。



鍾乳洞のシンボル「ブリリアント」(写真右)

(4) 洞窟内の生き物

ホライモリ (Proteus Anguinus)

●英語名では「プロテウス」、日本語では「ホライモリ」で知られている。体色が白く白人の肌に似ていることから、スロベニアでは「人間の魚」を意味するスロベニア語「チュロベシュカ・リビツァ」(človeška ribica)と呼ばれている。呼び名に「魚」が入るが、魚ではなく両生類である。また、このホライモリを最初に書物に記したヤネス・ヴァイカルト・ヴァルヴァソル(Janez Vajkard Valvasor)は、1689年にホライモリをドラゴンの子ども(幼体)として紹介していた。



©2015 Postojnska jama d.d.

●ホライモリは、体長が20～30センチほどで、ウナギのような長い体に手足がついた体をしている。頭部には外エラがついており、このエラから水中の酸素を吸って呼吸するほか、皮膚呼吸もできるようになっている。寿命は最長で100年と考えられており、14年間、えさを食べずに生存した記録も残されている。

●このホライモリが、2016年1～2月に鍾乳洞の展示用水槽の中で産卵し、話題となった。通常、ホライモリは10年に1度しか産卵せず、水槽の中での産卵は非常に珍しいケースと言われている。今回56個の卵を産卵し、同年5月30日に無事に孵化した。

3. ポストイナ周辺情報

(1) 洞窟城 (Predjama Grad)

●ポストイナ鍾乳洞から北西に9km離れた位置にある、高さ123mの切り立った断崖絶壁に建つ中世の城。この城が建設されたのは12世紀頃と言われているが、現在の姿は16世紀のものである。城の内部は、16～19世紀の家具や絵画、当時の生活を再現した人形の展示がされている。

●城には、盗賊騎士と呼ばれた15世紀の城主、エラズム・プレドヤムスキの伝承が残る。騎士であった彼は、金持ちの貴族から財宝を奪い、貧しい人々に分け与えていた義賊でもあった。

当時、この地はオーストリア大公国の支配下にあったが、反抗的な彼は、敵対していたハンガリー王国側に寝返った。そのためオーストリア軍に追われ命を狙われることになる。形勢は圧倒的に不



利であったが、外界への隠し通路などこの城独自の構造が役立ち、彼は長期(半年間とも言われている)にわたり持ちこたえることができた。しかし、最期は配下の裏切りにあい、1484年にその人生を終えることになった。

(2) シュコツィアン鍾乳洞 (Škocjanske jame)

●ポストイナ鍾乳洞から南西に33kmのクラス(Kras)地方に位置する。この地名が「カルスト」の語源になった。シュコツィアン鍾乳洞は、1986年ユネスコ世界遺産に登録された他、1999年には最初の地下湿地帯としてラムサール条約の対象湿地にも登録された。



シュコツィアン鍾乳洞一帯

©2016 Ljubljana Tourism

●シュコツィアン鍾乳洞の特徴は、スロベニア最大の地下水流であるレカ川が形成した、深さ約100mもの巨大な陥没ドリーネ(doline: すり鉢型の窪地)である。

●シュコツィアン洞窟一帯は、考古学的な出土品も豊富で、1万年以上前からこの地に人が住んでいたことを物語っている。また、この地帯は、3000年ほど前にはヨーロッパ、特に地中海世界の重要な巡礼地のひとつであったと考えられている。その地底奥深くへとぼっかり口をあけた景観は、死後の世界や先祖の靈魂との交流に結びつくものと考えられた。

